

さくら

SHIMAZU KONGEI HOSPITAL COMEDICAL FREE PAPER

2019. 2. 1 No. 69

JA静岡厚生連清水厚生病院医療協力部門

介護支援ロボットについて

介護は現代の日本社会が抱える大きな課題です。国や社会の対応は、一つ一つの決断を待たなして下していく必要があります。

それらの問題の一つに、介護スタッフが不足しているという現状は、多くのマスメディアで取り挙げられています。

その理由の一つに、『身体的・精神的に仕事がつい』が取り挙げられています。今回は、そんな『**身体的にきつい**』という状況を軽減できるとされる介護支援ロボットについて、実際に使用した試用者の感想をご紹介します。（一部、当病院・施設で導入しております。）

【介護ロボットの重点開発分野】

現在、介護ロボットが必要とされ、重点的に開発が進められている機能は、主に次の6つとなっております。

① 移乗介助機器

装着型 *1
非装着型

② 移動支援機器

屋外型
屋内型

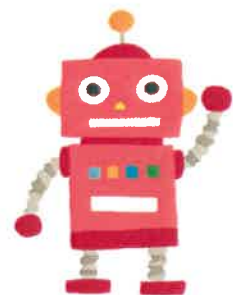
③ 排泄支援機器

④ 見守り支援機器

介護施設型 *2
在宅介護型

⑤ 入浴支援機器

⑥ 介護業務支援



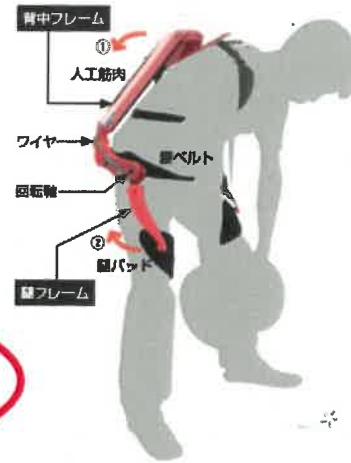
今回は6つの分野の中で、① 移乗介助機器の装着型：スタンドアローン と ④ 見守り支援機器の介護施設型：ベッドサイドマットセンサーについて記載しております。

また、ベッドサイドマットセンサーは、当病院・施設でも導入しております。

『装着時間 10秒 人工筋肉で、腰 をアシスト

スタントアローン』 *1

介護者が人工筋肉（マッスルスーツ）を背負うだけで腰の負担を大幅軽減。小スペースを行き来する行動が可能。



同じ類いのモノと比較すると安価。
誰でも簡単に素早く装着できる事や充電などのややこしい準備がないのが良かった。

負荷を軽減できる部分は腰のみ、腕の軽減もして欲しかった。正しい使用方法ができないと思惑は感じにくい。比較的軽量といっても重いと感じました。

『徘徊・転倒はこれで防止

ベッドサイドマットセンサー』 *2



設置自体が簡単。夜間、介護者が少なくなる時に身体的だけでなく精神的な負担も減りました。

対象者の家族がマットセンサーに乗ってしまう。または、介護者が体位転換やおむつ交換の作業時にマットセンサーが反応してしまうのが困りました。